



# 営農タイムリー！



## 防除所ニュース

2024年2月5日発行

### 発生予察特殊報

京都府病害虫防除所より、  
発生予察特殊報 第1号が発表されました。

病原ウイルス	Cucurbit aphid-borne yellows virus : CABYV
作物名	キュウリ
発生地域	京都府南部

#### 1. 発生経過

- (1) 令和5年7月、京都府南部の露地キュウリほ場において、葉に退緑及び黄化症状を示す株が認められた。
- (2) 本府生物資源研究センターにおいてRT-PCR法による検定及びRT-PCRの増幅産物の塩基配列解析から、CABYVの感染を確認した。
- (3) 本ウイルスの発生報告は、国内では初めてである。

#### 2. 病徴

中位葉において、葉の半分程度に退緑及び黄化症状が発生する(図1)。さらに、症状が進むと葉全体が黄化する(図2)。



図1 半分が黄化した葉



図2 全体が黄化した葉

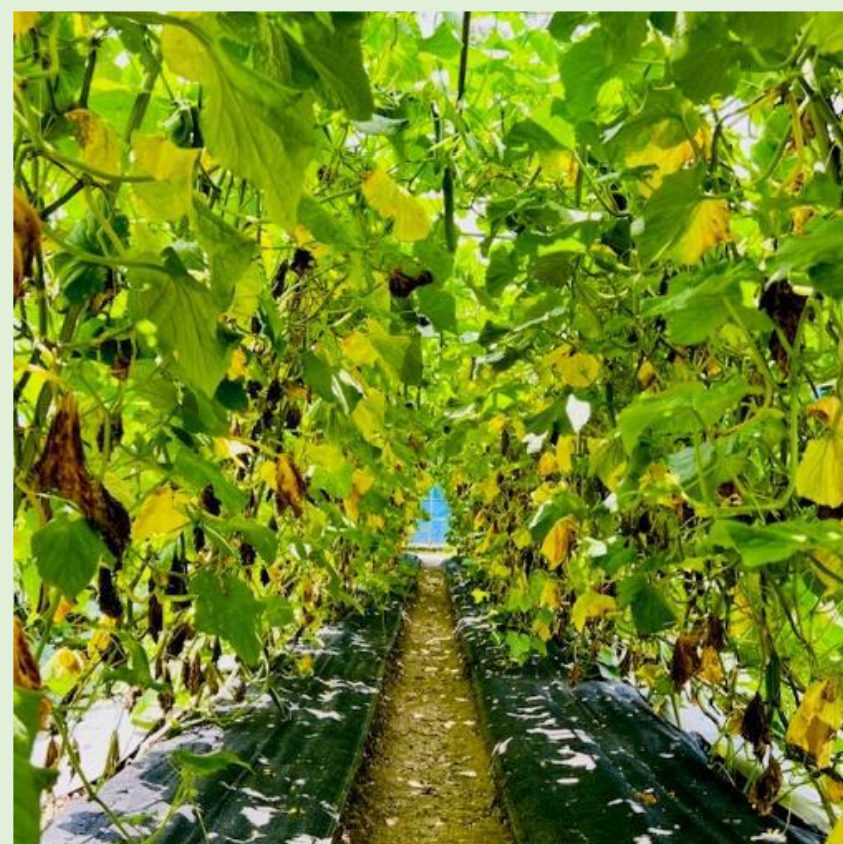


図3 ほ場での発生の様子

#### 引用文献

Lecoq et al. (1992) Plant Pathology 41: 749-761.

### 3. 病原ウイルスの特徴と伝搬方法

- (1) 本ウイルスは、ソレモウイルス科ポレロウイルス属に属し、1988年にフランスにおいて、**キュウリ、ズッキーニ、カボチャ**及び**メロン**で初めて発生が確認され(Lecoq et al., 1992)、以降、海外45カ国で主に**ウリ科野菜**に被害を及ぼしている。
- (2) 国内での本ウイルスの媒介虫は不明である。フランスなど海外では、**ワタアブラムシ**等の**アブラムシ類**が媒介虫であるとされている。汁液、種子及び土壌伝染は確認されていない。
- (3) 媒介虫は、罹病植物を吸汁することで本ウイルスを保毒し、一度ウイルスを獲得すると永続伝搬するが、経卵伝染はしない。
- (4) 若い株が感染すると着花不良によって収量が大きく低下し、**キュウリ**では**最大50%減収**する事例が海外では報告されている(Lecoq et al., 1992)

### 4. 防除対策

- (1) 発病株は直ちに抜き取り、ポリ袋等に密閉してほ場外に持ち出し適切に処分する。
- (2) 国内での媒介虫は不明であるが、海外の情報から**アブラムシ類**の**防除を徹底**する。
  - ① 苗から**アブラムシ類**を持ち込まないように注意する。
  - ② 施設の開口部に0.8mm 目以下の**防虫ネット**を展張し、**アブラムシ類**の侵入を防ぐ。
  - ③ ほ場周辺の雑草は発生源となるので、除草を徹底する。
  - ④ ほ場周辺に**アブラムシ類**を分散させないため、栽培終了後には全株を地際から切断または抜根し、施設を密閉して死滅させる。
  - ⑤ **アブラムシ類**の薬剤感受性の低下を防ぐため、**同一グループの薬剤の連用を避ける**。

### ◎ 参考

- (1) **退緑黄化病** 病原はCrinivirus 属のウイルス(CCYV)で、**タバココナジラミ**(バイオタイプQ及びバイオタイプB)により媒介される。
- (2) **黄化病** 病原はCrinivirus 属のウイルス(BPYV)で、**オンシツコナジラミ**により媒介される。



退緑黄化病



黄化病

# ■ キュウリ アブラムシ類の防除体系 例

育苗期に

定植時に

OR

28 **ベリマーク<sup>SC</sup>**

[400株あたり25ml  
/ 400株あたり2~20L(1株あたり5~50mL)  
/ 育苗期後半~定植当日 / 灌注 / 1回]  
〔アザミウマ類:コナジラミ類:ハモグリバエ類  
400株あたり10~20L(1株あたり25~50mL)〕

28 **プリロツン<sup>粒剤</sup> オメガ**

[2g/株  
育苗期後半~定植時 / 株元散布 / 1回]  
〔アザミウマ類:コナジラミ類:ハモグリバエ類〕

4A  
28 **ミネクト デュオ<sup>粒剤</sup>**

[1g/株 [アクタラ+プリロツン]  
鉢上げ時~育苗期後半 / 株元散布 / 1回]  
〔アザミウマ類:コナジラミ類:ハモグリバエ類〕

発生が認められたら

29 **ウララ<sup>DF</sup>** [コナジラミ類 2000倍]  
[2000~4000倍収穫前日まで / 3回以内]

28 **ベネビア<sup>OD</sup>**

[2000倍 / 収穫前日まで / 3回以内]  
〔アザミウマ類:ウリ/メイガ:コナジラミ類:ハモグリバエ類〕

**ヨーバルフロアブル**

[2500~5000倍 収穫前日まで / 3回以内]  
〔アザミウマ類:コナジラミ類 2500倍〕

3A

**アグロスリン<sup>乳剤</sup>**

[2000倍 収穫前日まで / 5回以内]  
〔オンシツコナジラミ〕

**アディオ<sup>乳剤</sup>**

[2000~3000倍 収穫前日まで / 3回以内]  
〔オンシツコナジラミ〕

**トレボン<sup>乳剤</sup>** [コナジラミ類]

[1000倍 収穫前日まで / 3回以内]

23 **モベント<sup>フロアブル</sup>**

[2000倍 収穫前日まで / 3回以内]  
〔アザミウマ類:コナジラミ類:ハダニ類〕

**ローテーション散布**

4A

**アクタラ<sup>顆粒水溶剤</sup>** [コナジラミ類]

[3000倍 / 収穫前日まで / 3回以内]

**スタークル<sup>顆粒水溶剤</sup>** **アルバリン<sup>顆粒水溶剤</sup>**

[2000~3000倍 収穫前日まで / 2回以内]  
〔コナジラミ類〕

**モスピラン<sup>顆粒水溶剤</sup>** [アザミウマ類]

[2000倍 / 収穫前日まで / 3回以内]

9B **コルト<sup>顆粒水和剤</sup>**

[4000倍 収穫前日まで / 3回以内]  
〔コナジラミ類〕

4C **トランスフォーム<sup>フロアブル</sup>**

[2000倍 収穫前日まで / 2回以内]  
〔コナジラミ類 1000~2000倍〕

※ [害虫名]はアブラムシ類以外の適用害虫。他害虫と同時防除できます。  
使用の際は使用基準を確認してから使用しましょう。